５ NPO法人のらんど

事　業　実　施　報　告　書

団体名：ＮＰＯ法人のらんど
事業名　障害児生活サポート事業所や放課後等デイサービスと協同して開催する農体験イベント

１　事業の目的

① 障害児がもっと農業に関われる機会をつくる、②農と障害児の事業所、協働のしくみをつくる、③農福連携を支える人材の育成へ向けて取り組む

２　事業内容

（１）事業の概要

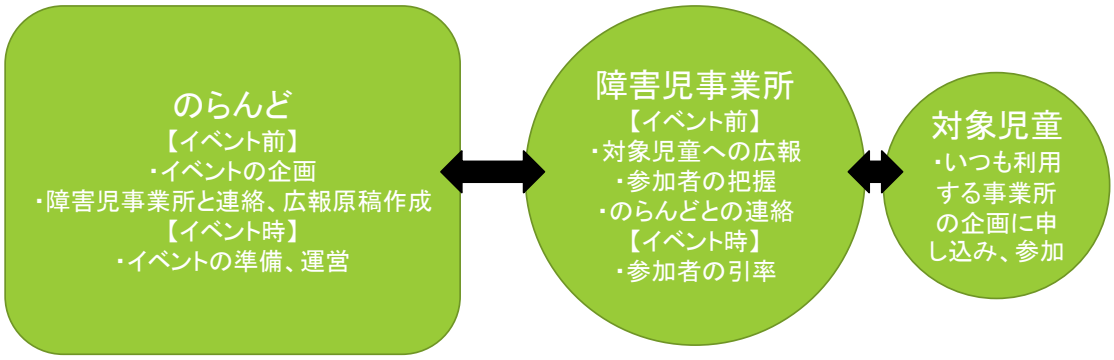
「農」をテーマにするＮＰＯ法人のらんどと、「障害児」がテーマである障害児生活サポートや放課後等デイサービス事業所が協働して、より多くの障害児が安心して農体験できるイベントを開催する。

① 障害児がもっと農業に関われる機会を

農福連携が推奨されている中、障害のある児童が早い段階から農に触れ、興味の対象や進路先としてもっと身近に感じられるよう、障害のある児童を対象とした農体験のイベントを開催することにした。

② 農と障害児の事業所、協働の仕組み

農体験を行う団体がイベントを企画運営、それを障害児のための活動を行う団体の企画として利用してもらうことで、イベントの情報を対象者に効率的に届け、対象者が安心して参加したいと思えるようにする。



③ 農福連携を支える人材の育成に向けて

福祉や農を学ぶ大学生にボランティアとして参加してもらい、人材育成につなげる。

④ アンケート

開催地の近隣（さいたま市緑区、浦和区、南区、岩槻区）の生活サポート事業所、放課後等デイサービスに対し、農体験イベントへの参加についてアンケート調査を行う。

また各イベントに参加した施設、個人、保護者に対しアンケート調査を行う。

（２）事業の流れ

30 年 6 月：ＮＰＯ法人ビーポップ、大学関係者との打ち合わせ。
広報（Facebook、放課後等デイサービス等に広報物送付）。

7 月 24 日：農園でやってみよう①「ハーブを使ったソーセージ作り」
□参加団体　3　□参加者　23 名　□ボラ　7 名

↑ハーブを収穫　↑具を作る　↑ソーセージ完成！　↑暑かった！

9 月 9 日：農園でやってみよう②「しそジュースづくり」
□参加団体　1　□参加者　11 名　□ボラ　8 名

↑しそを収穫　↑採ってきたしその葉をとる　↑豚肉でしそを巻く　↑しそジュースで乾杯！

10 月：さいたま市内放課後等デイサービスにアンケート送付

11 月 11 日：農園でやってみよう③「里芋掘り」
□参加団体　2（うち 1 は午前のみ）　□参加者　17 名　□ボラ　10 名

↑鎌を使って切る　↑掘る　↑親芋子芋をバラバラに　↑たくさんとれました　↑量ります

12 月：さいたま市内生活サポート事業所にアンケート送付

1 月 27 日：農園でやってみよう④「見沼の小麦を使ったパン作り」
□参加団体　2　□参加者　18 名　□ボラ　4 名

↑小麦をこねる　↑ピザ用野菜の収穫　↑ピザづくり　↑たき火でパン焼き　↑たき火を囲んで歌う

2 月：反省会、来年度に向けた打ち合わせ

（３）連携・協力機関

ＮＰＯ法人ビーポップ、児童デイサービスくろわーる、特定非営利活動法人あかり、明治学院大学、東京農業大学、パルシステム埼玉

３　成果及び今後の展開

（１）　成果

① イベント全４回実施、３事業所の参加

今年度は３事業所の参加があった。このうち２事業所は全４回のうち３回から４回参加した。毎回３０名を目標としていたが、最大２３名にとどまった。長時間のイベントで違う団体がともにすごすとき、３０名の定員は多いということがわかった。複数団体が参加する場合、各回１５人から２０人が適度だということがわかった。短時間のイベントであれば大人数でも対応が可能だと思われる。

② 対象児童の参加

昨年度の課題であった対象年齢児童の参加率について、放課後等デイサービスの参加によって、増加した。

③ 参加した個人とその保護者、事業所に対するアンケート実施

参加者、保護者の満足度が高かった。

反面、事業所からは、トイレをはじめ設備の事前説明と整備の不足、猛暑への対策不足といった指摘を受けた。

④ 事業所へのアンケート実施

生活サポート事業所について、回答数が少なかった。回答のあった事業所も、移動支援がメインで余暇の企画を積極的に行っていないという回答が多かった。

放課後等デイサービスについて、農体験のイベントに対する関心は高いことが分かった。ただし日曜日は休業の事業所が多く、土曜日なら参加したいというところが多かった。また 2 時間程度の短時間がよいところが多かった。さらに個別の要望に合ったイベントを企画してほしいというところもあった。

⑤ 人材育成について

連携した明治学院大学、東京農業大学の学生のほか、学生同士のつながりやＷＥＢサイトの広告により、その他大学に所属する学生も参加した。

何度も参加した学生も複数名いた。

（２）　今後の展開

① 協働について

イベントに対する関心の高い放課後等デイサービスに対し積極的に協働を働きかける。遠足や行事で農体験をという要望に合わせ、個別にイベントを企画。

② イベント内容について

午前のみ午後のみ参加もできるようなプログラムにする。

③ 当日の運営について

スタッフやボランティアの動きを見直し、より安心できるプログラムにする。

④ 人材育成について

今年度何度も参加した学生をスタッフとして育成していく。

⑤ 周辺ＮＰＯなどとの協力について

福祉農園付近で活動している農業系、環境系のＮＰＯ法人などと連携したイベントの企画を行えるよう準備する。

⑥ 運営費について

参加費 2,500 円で毎回１５人から２０人の参加だと継続は難しいが、これ以上参加費を上げると参加できる人が少なくなる。

イベントの趣旨に賛同してくれている協働団体のうち、運営にも協力してくれるというところに、イベント中のサポートをお願いすることでスタッフの人数を増やさず対応する。

また法人のまちづくり事業全体で収入を上げることでこの企画を続けていく。